作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	尾崎　亮
所属機関名	工学部情報工学科
職位	准教授
在籍年	23 年

教育の責任

コンピュータ工学（1 年）、情報数学 I（2 年）、ソフトウェア工学（3 年）、エンジニアリングデザイン実習（3 年）等、コンピュータ技術の基礎およびプログラミング応用（設計技法とチーム開発）を担当している。また、卒業研究の指導を行っている。更に、学科学生の課外活動のとりまとめの役割を担っている。

教育の理念

建学の理念「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し 技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」のもとで、情報工学分野の教員として、自立したコンピュータ技術者となるためのサポートを行う。そのためには、日々進化し続けるコンピュータ関連技術に末永く対応していけるよう、卒業後も継続して学び、新しい技術を習得していけるように、学生のうちに自ら積極的に学ぶ姿勢や能力を身に着けさせる、という理念のもと、日々教育を行っている。

教育の方法・方針

学生にとって講義に対する関心の度合いや意欲はまちまちであり、分かりやすいと感じる説明の仕方は学生によって大きく異なる。また、卒業後も継続して学び続けるためには、学生個々が自分に合った勉強の仕方を知り、勉強の結果によって達成感を得ることも大切である。これらを前提に、対面授業／VOD 動画／PDF 資料を全ての講義の全ての回に用意し、一つの内容に対して豊富な種類の解説が得られるようにしている。また、各講義での課題に取り組む際にも相談を大いに推奨し、時にはグループワークで取り組ませることにより、成績の良い学生が教師役になることを期待している。講義ごとにゲームの開発などの大きな目標を課し、講義課題を進めていくことによってその目標が達成され、自作ゲームなどの具体的な成果物が得られるようにしている。

教育の成果

学生が自分にあった方法で受講することができるため、ほぼ全ての授業アンケートの感想欄で、分かりやすいとの評価を得ている。また、学生が卒業後に来学した際にも、分かりやすくてためになったとの声を聞かせてくれることがある。授業アンケートの結果で、講義を受講して「満足」「ほぼ満足」であるとの評価が 9 割程度を占める。卒業研究において、学生が指導によって研究成果を出し、またそれによって更に研究への意欲を高めていた。

今後の目標

学生が継続した学びの能力を得るためには、講義外においても日常的に勉強する環境を整えていくことが肝要であると感じている。学科において組織的に課外活動を行う仕組みを作り、そのような環境を作り出したい。また、講義内容を最新のものに維持することも、間接的にこれ

らに効果があろうと考えられる。
根拠資料
シラバス、レポート課題、講義のパワーポイント教材、授業アンケート結果、教育実践論文「工学部情報工学科研究等プロジェクトの立ち上げと運用」